

## 朴順福（パク・スンボク）さんを追悼して

朴順福さんが2018年1月9日の午後10時44分に亡くなりました。享年87歳でした。

葬儀は長男さんが住む慶尚南道の宜寧(ウイリョン)で行われ、日本からは葬儀には間に合わず残念ながら参列することができませんでした。

一昨年(2016年)春に、引き取られていた釜山の娘さんの家で転んで股関節骨折をして寝たきりになっていました。昨年5月には床ずれがひどくなり、肺炎になって集中治療室に移られていて、医者から長くないだろうと言われていました。一時持ち直しましたが、ついに帰らぬ人となりました。

不二越での女子勤労挺身隊時代、連日の空襲警報による恐怖と緊張と睡眠障害とで、帰国後もずっと不眠症で苦しまれてきました。不眠で体が衰弱し、入院して点滴し体力を取り戻す事を繰り返されていて、胃がんの手術もされました。

空襲警報による後遺症で大きな音には神経過敏になり、アメリカでの9・11テロのニュース映像で富山での恐怖がフラッシュバックして、心臓がバクバクしてテレビを見れなくなったと言っておられました。

皇民化教育の優等生で14歳のとき「愛国するため」に志願した勤労挺身隊、そこでの思いもよらぬ重労働、「裏切られた」との思いと「愛国しなければならぬ」との思いに引き裂かれ、戦時下の恐怖と空腹と重労働に心身を病んでしまった朴順福さん。生涯薬を手放せず、心身の病氣と向き合いながら、必死に生きられた戦後の72年余り……

順福さんは日本の歌が好きで、おしゃれで、料理上手な素敵なおばあさんでした。裁判所からの帰りの車の中で、宿泊地で、挺身隊時代に流行った演歌や軍歌の歌詞を正確に最後まで歌われました。その記憶力に感嘆したものです。

彼女が裁判の過程で同じ被害にあった仲間たちや支援する日本人たちと共に闘い、笑い、歌い、激昂し、涙し、喜んだ日々は彼女にとって「青春」ではなかったかと思えます。彼女の「恨」多き人生が少しでも癒され、彼の国への旅立ちが安らかであることを願っています。

朴順福さんのご冥福を心よりお祈りします。

花房恵美子

